

「予測不能の美」

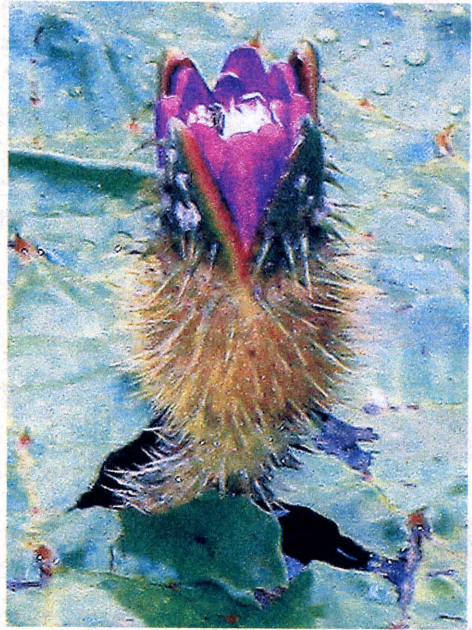
オニバス開花

鳴門の用水路

鳴門市大津町段関の農業用水路で、県の絶滅危惧Ⅰ類になっているオニバスが開花した。写真。「環境に左右されるのでいつ咲くかの予測ができない」（木下覚・県植物研究会長）とい

い、近所の男性(63)は「この場所で50年ほど前に花を

見たのを覚えていた。あの頃はいっぱい咲いていた。あれ以来だ」と話す。開花したのは、大津町段



関の2カ所の用水路。水面に開いた大きな葉を突き破って、鋭いとげのある花茎が顔を出し、赤紫色の色鮮やかな花が見える。ただ、すぐに葉の下に沈んでしまうため、観賞できるのは早朝のわずかな間だけだという。

4年前から、徳島大学や農家をつくる自然再生型農業プロジェクト「えんたのれんこん」に参加している子どもたちが水路の泥あげをしている。さらに水路の改修もあり、「これらと気象の変化が刺激になって、花をつけたのかも知れません」と木下会長は推測している。

(長谷川大彦)